

# 倒立型フィルターでの検出器配置の検討と、サーベイ案 (大藪編 超叩き台)

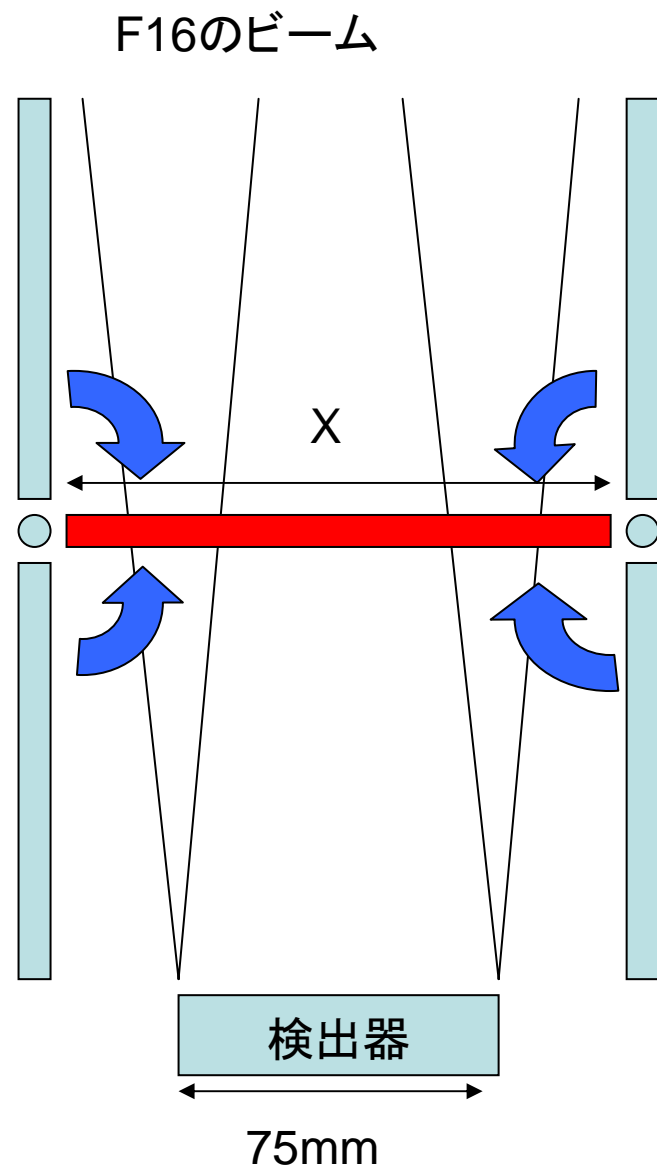
大藪進喜

# 焦点面直前編

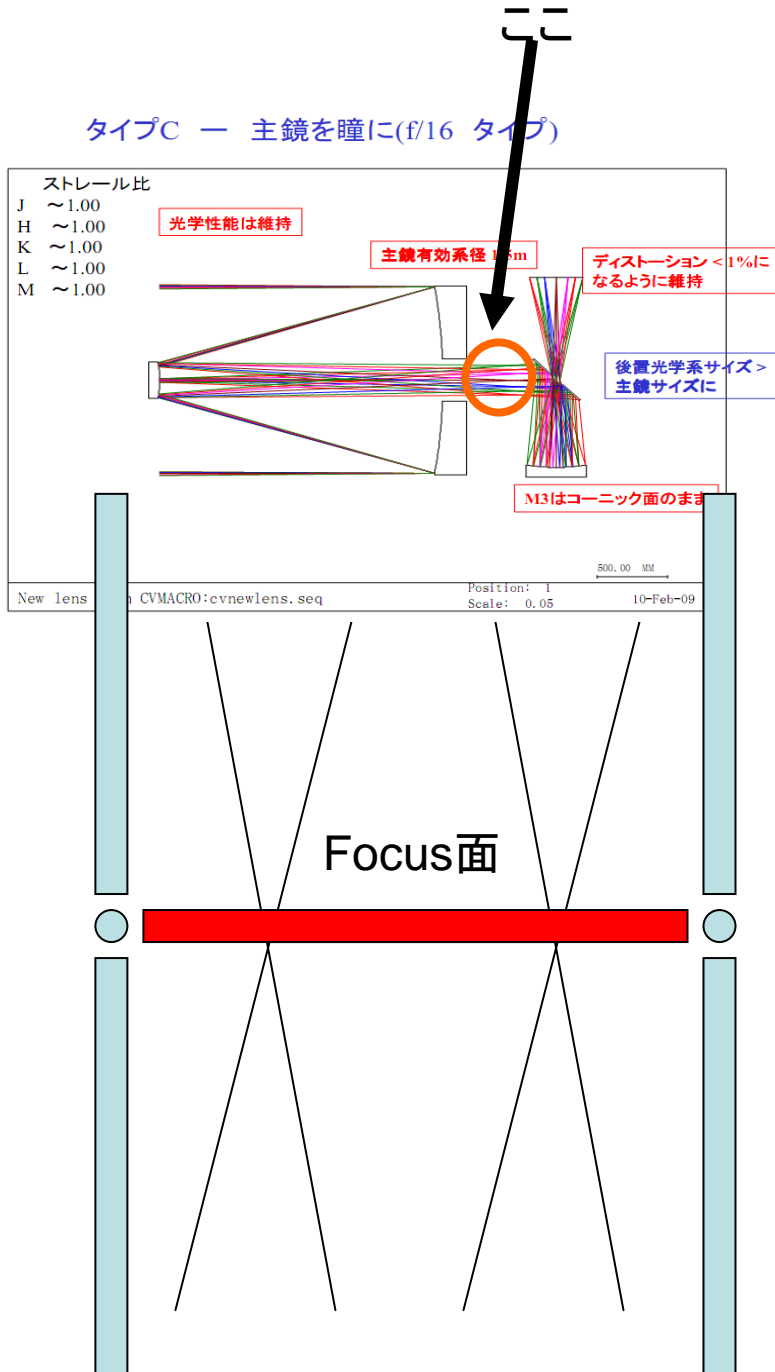
$$75 + \frac{2x}{16} = x$$

$$x = 86\text{mm}$$

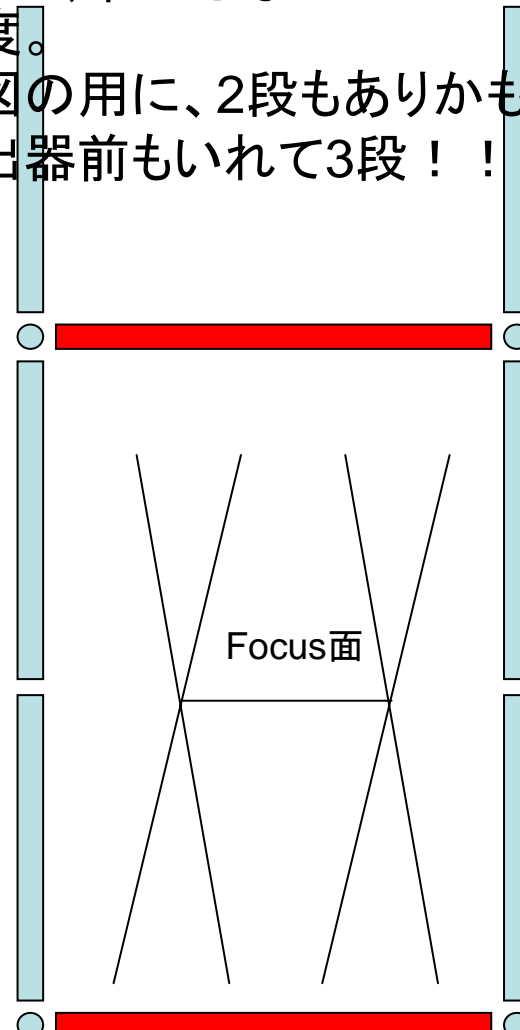
フィルター・交換機構の厚み等を考えて9-10cmほどあれば、よさそう。  
機構の高さは20cmでいいので、検出器直前でも入るだろう。



# カセグレン穴後の 第1フォーカス編

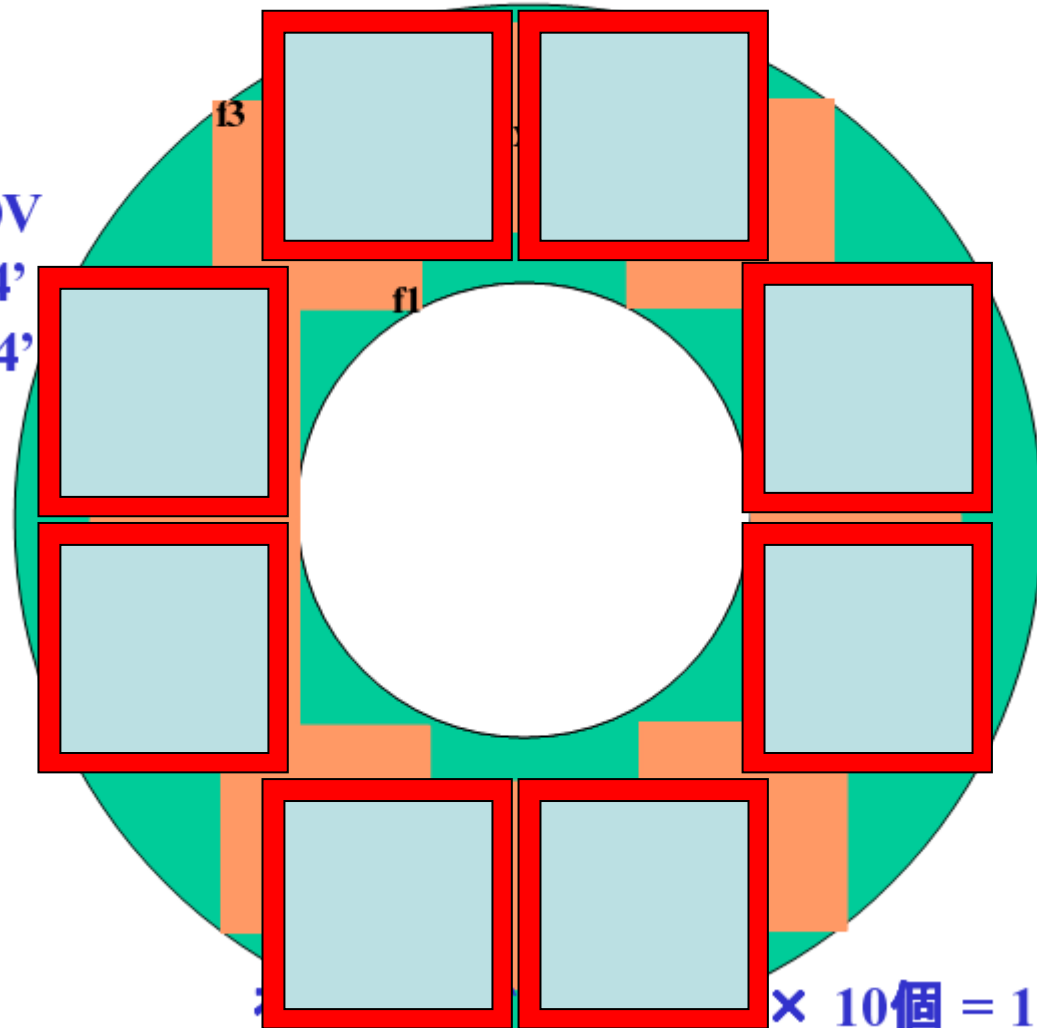


- 先ほどの式を、ビームのF値だけサイズを考え直す。
- F値が、わからなかったのも、また今度。
- 下図の用に、2段もありかも。
- 検出器前もいれて3段！！！！



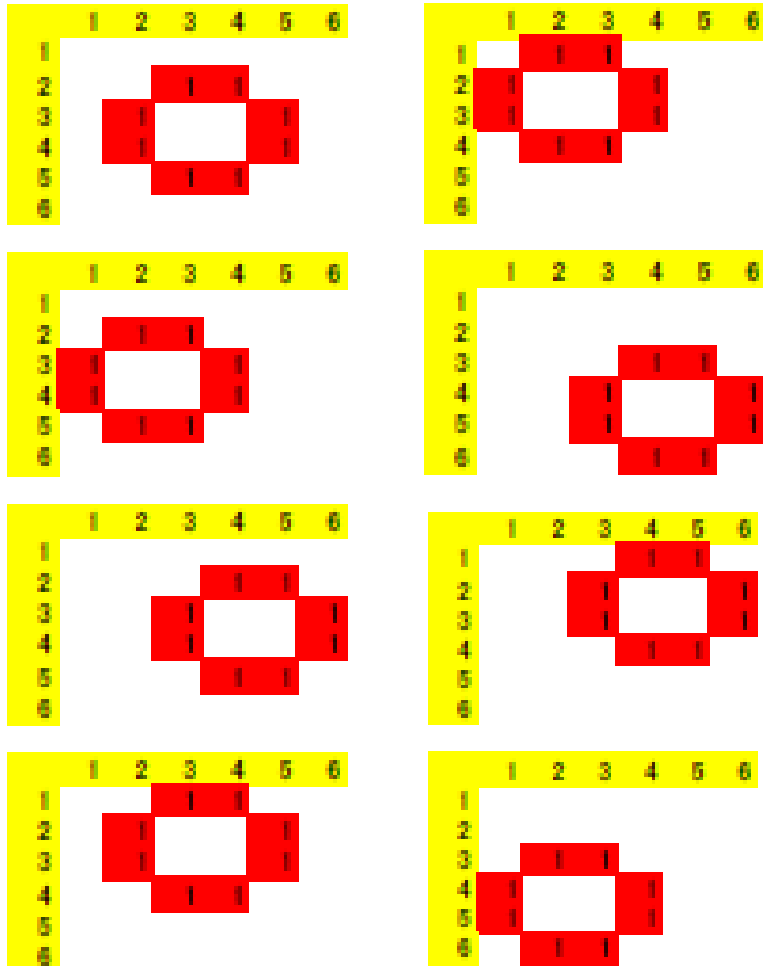
# C案 — 焦点面レイアウト

光学系FOV  
(外形  $\phi 54'$   
内径  $\phi 24'$ )



$\times 10\text{個} = 1063 \text{ arcmin}^2$

# サーベイ案



	1	2	3	4	5	6
1	0	1	2	2	1	0
2	1	2	3	3	2	1
3	2	3	4	4	3	2
4	2	3	4	4	3	2
5	1	2	3	3	2	1
6	0	1	2	2	1	0

この形を永遠に繰り返せる。  
よって結構綺麗に埋められる。

# Summaryと私見

- 検出器前だとサイズ10-20%(面積にすると20-40%)の焦点面の仕様で実現可能であろう。
- 第一フォーカスでの検討は、後日(少し大きくなるか)。
- 倒立フィルター案は、大型フィルターの製作・破壊のリスクを回避するには、大変おもしろいアイデアと思う。
- このような、ギミックでしっかりしたものが作れたら、フィルターの種類も増やせるだろう。
- ただおそらく迷光には、苦しむことになると考えられる。